

授業科目	検定対策Ⅳ〔MT2・PH2・健康2〕		担当教員	喜多 奎介	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	0回	時間数
授業目的	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。また、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。				
到達目標	健康運動実践指導者理論試験合格を目標とする。				
テキスト・参考図書等	健康運動実践指導者養成用テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	40			
	提出物	30			
	その他	30			
履修上の留意事項	講義及び演習形式にて授業を展開していきます。「健康運動実践指導者」に必要とされる知識・技術について学習します。他の教科と共通する部分を確認し、日々の学習の中で関連させながら理解を深め健康運動実践指導者合格に向けて学習していきましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	練習問題・解きなおし①	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	2	練習問題・解きなおし②	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	3	練習問題・解きなおし③	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	4	練習問題・解きなおし④	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	5	模試①	試験本番を想定した模試の実施		
	6	練習問題・解きなおし⑤	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	7	練習問題・解きなおし⑥	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	8	練習問題・解きなおし⑦	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	9	練習問題・解きなおし⑧	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	10	模試②	試験本番を想定した模試の実施		
	11	練習問題・解きなおし⑨	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	12	練習問題・解きなおし⑩	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	13	練習問題・解きなおし⑪	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
14	練習問題・解きなおし	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし			

		⑫	
	15	模試③	試験本番を想定した模試の実施

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	外国語〔トレ 3・健康 2〕		担当教員	斉藤 恵		
対象年次・学期	2 年・通年		必修・選択区分	必修 (SB)・選択	単位数	
授業形態			授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	外国語を学びながら言語や文化に関する理解を深め、さまざまな分野でのコミュニケーション能力を身につけるとともに、英語を将来の自分の仕事に役立てていきたいという意識を養う。					
到達目標	1) 挨拶からビジネスシーンでも使える自然な英語表現を理解する 2) 日常のやさしい会話を聞き、理解する 3) 単語を正確に理解し語彙力を高める					
テキスト・参考図書等	英会話 1000 本ノック (コスモピア) / プリント教材 / アプリ教材					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験	0	成績評価は各ユニットの小テスト、その他授業態度等を合わせて総合的に評価します。			
	レポート	0				
	小テスト	50				
	提出物	20				
	その他	30				
履修上の留意事項	グループワークが多いので、積極的な参加や学生間で協力する姿勢を高く評価します。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション	授業の進め方、取り組み方 / 自己紹介作成、発表			
	2	chapter 1 コミュニケーション力の基礎固め 短いひとこと	unit 1-3 世界共通挨拶/初対面挨拶/出会いと別れ際の連続 Thanks			
	3	chapter 1	unit 4-6 間違いやすいあいさつ イントネーション 別れ際の定番			
	4	chapter 1	unit 7-9 出会い頭定番表現 サウンドノック 数字ノック			
	5	chapter 1	unit 10-11 スポーツジムでの模擬会話 まずはあいさつ / 名前をしっかりと伝えよう			
	6	chapter 1	unit 11 challenge 模擬会話 保険の登録/入会特典の案内			
	7	chapter 2 ひとこと + 簡単一文	unit 12-13 返事 + How about you? 褒められて Thanks プラス 1			
	8	chapter 2	unit 14-15 質問で聞き返す Spell it out! スペル伝達ノック			
	9	chapter 2	unit16- (17) Yes/No に補足 1 文プラスノック			
	10	chapter 2	unit18-19 名前を上手に伝える (日→英) 道案内の基本表現 (道を教える)			
	11	chapter 2	unit20 (日→英) 道案内の基本表現 (道を聞く) / unit 22 会話実践①道案内			
	12	chapter 2	unit 22 会話実践②③道案内			
	13	chapter 3 ひとこと + 補足の一文 (二刀流) Yes も No もどちらでも返す技	unit 23-24 ホテル定番/オンラインやり取り			

	14	chapter 3	unit 25-26 レストラン定番（オーダー編）（食事編） まとめ
	15	前期 復習	
	16	chapter 3	unit 27-28 ショッピング定番 Friend 定番ノック
	17	chapter 3	unit 30 天気や自然の質問（テンボ良く、淡々と）
	18	chapter 3	unit 33 会話実践 会話①② challenge③ はじめてのオンライントーク
	19	chapter 4 中級編Ⅰ ひとこと＋補足２文 自分の好みや身近なこと	unit 34 Do you...？ 現在形 Round 1, Round 2 and Round 3
	20	chapter 4	unit 35 Was, Did, Were...？ 過去形 Round 1, Round 2 and Round 3
	21	chapter 4	unit 36 Have you ever...？ 現在完了形 Round 1, Round 2 and Round 3
	22	chapter 4	unit 36 Have you ever...？ 現在完了形 Round 1, Round 2 and Round 3
	23	chapter 5 中級編Ⅱ ひとこと＋補足２文 情報や感想を伝える	unit 40 Who...？ ～はだれですか？ Round 1, Round 2
	24	chapter 5	unit 41 What...？ ～は何ですか？ Round 1, Round 2
	25	chapter 5	unit 42 Where ...？ ～はどこですか？ Round 1, Round 2
	26	chapter 5	unit 43 When...？ ～はいつですか？ Round 1, Round 2
	27	chapter 5	unit 44 How...？ どれくらい～ですか？ Round 1, Round 2
	28	review	振り返り まとめ
	29	review	振り返り まとめ
	30	review	振り返り まとめ
	31		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	スノーボード・スキー実習Ⅱ〔共通2〕		担当教員	田中 いぶき		
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態			授業回数	15回	時間数	60時間
授業目的	スキー・スノーボードにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。 スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。					
到達目標	冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。					
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する。					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	レポート・提出物等の状況を総合的に評価する その他は受講姿勢等で評価する			
	レポート	10				
	小テスト	0				
	提出物	10				
	その他	80				
履修上の留意事項	宿泊研修という決まりの中で、自己管理、時間管理を徹底して行う事。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	事前説明会	目的、注意事項伝達			
	2	1日目午後レッスン開始	各班に分かれ道具の特性・理論等を学ぶ			
	3	1日目ミーティング	1日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する			
	4	1日目ナイター練習	1日目に学んだことを復習する。			
	5	2日目午前レッスン開始	1日目より難易度の高い事を学ぶ			
	6	2日目午後レッスン開始	1日目より難易度の高い事を学ぶ			
	7	2日目ミーティング	2日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する			
	8	2日目ナイター練習	2日目に学んだことを復習する。			
	9	3日目午前レッスン開始	2日目より難易度の高い事を学ぶ			
	10	3日目午後レッスン開始	2日目より難易度の高い事を学ぶ			
	11	3日目ミーティング	3日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する			
	12	3日目ナイター練習	3日目に学んだことを復習する。			
	13	4日目午前レッスン開始	各班に分かれ、検定へ向けてレッスンをする			
	14	4日目検定	今まで学んだことを踏まえて検定に臨む			
	15	4日目ミーティング	4日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する			

授業科目	スノーボード・スキー実習Ⅱ〔共通2〕	担当教員 実務経験	小笠原 鷹介 有：□ 無： ■	
対象年次・学期	2 年・集中	担当教員		
授業形態		実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	二年次研究課題Ⅱ〔健康2〕		担当教員	教員 未登録	
対象年次・学期		必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数	0 回	時間数	60 時間
授業目的					
到達目標					
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	評価内容				
	評価内容				
	評価割合				
	評価割合				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	水泳コーチⅠ対策〔健康2〕		担当教員	今井 由美子	
対象年次・学期			必修・選択区分	単位数	
授業形態			授業回数	0 回	時間数 30 時間
授業目的					
到達目標					
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	評価内容				
	評価内容				
	評価割合				
	評価割合				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	ブランディング〔SB2〕		担当教員	中根 望	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
60時間					
授業目的	広報における企業ブランディングの知識・理解を深める。企業分析を行いながら、ブランディングを学び、今後のスポーツビジネスの現場においての創造力や発信力の広報スキルを身に付ける。				
到達目標	物・事・人の見せ方をについて、自分なりの考え（創造力・表現力）を持ち、人に伝えることができる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料配布				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		授業内で課す提出物(課題・計画案等)や小テスト(知識確認等)の結果およびその他（出席状況、受講態度等）を総合的に評価する。		
	レポート				
	小テスト	20			
	提出物	60			
	その他	20			
履修上の留意事項	将来、進む業界での必要スキルです。前向きな姿勢で積極的に授業参加してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	最終到達目標、授業の進め方について		
	2	ブランディングの基礎	ブランディングとは何か、基礎知識を学ぶ（リサーチも含む）		
	3	ブランディングの基礎	ブランディングの方法や知識について理解を深める		
	4	企業分析①	ブランディングが成功している企業の分析をグループワークで行う		
	5	企業分析①	ブランディングが成功している企業の分析をグループワークで行う		
	6	企業分析①	ブランディングが成功している企業の分析をグループワークで行う、発表を行う		
	7	企業分析②	ブランディングが成功している企業の分析をグループワークで行う		
	8	企業分析②	ブランディングが成功している企業の分析をグループワークで行う		
	9	企業分析②	ブランディングが成功している企業の分析をグループワークで行う		
	10	企業分析③	ブランディングが成功している企業の分析をグループワークで行う		
	11	企業分析③	ブランディングが成功している企業の分析をグループワークで行う		
	12	企業分析③	ブランディングが成功している企業の分析をグループワークで行う		
	13	企業分析④	ブランディングが成功している企業の分析をグループワークで行う		
	14	企業分析④	ブランディングが成功している企業の分析をグループワークで行う		

	15	企業分析④	ブランディングが成功している企業の分析をグループワークで行う
	16	ブランドの決定	グループワーク (ターゲット分析、実施計画)
	17	ブランドの決定	グループワーク (ターゲット分析、実施計画)
	18	ブランドの決定	グループワーク (ターゲット分析、実施計画)
	19	ブランドの見せ方を考える	グループワーク (具体的な発信内容の準備等)
	20	ブランドの見せ方を考える	グループワーク (具体的な発信内容の準備等)
	21	ブランドの見せ方を考える	グループワーク (具体的な発信内容の準備等)
	22	グループ発表	計画案の発表・ディスカッション
	23	ブランディング実践	実践、分析、調整
	24	ブランディング実践	実践、分析、調整
	25	ブランディング実践	実践、分析、調整
	26	ブランディング実践	実践、分析、調整
	27	振り返り・まとめ	ブランディング効果、グループ振り返り、資料作成
	28	振り返り・まとめ	ブランディング効果、グループ振り返り、資料作成
	29	グループ発表	計画案の発表・ディスカッション
	30	1年間のまとめ	グループ・個人振り返り

授業科目	ブランディング〔SB2〕	担当 教員 実務 経験	中根 望	
対象年次・学期	2 年・通年	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	健康運動理論Ⅰ〔MT2・PH2・健康2〕		担当教員	田中 いぶき	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。また、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。				
到達目標	全9章分の基礎知識を身に付け、健康運動実践指導者理論試験合格レベルを目標とする。				
テキスト・参考図書等	健康運動実践指導者養成用テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70			
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	30			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・第1章 健康運動づくり施策概論	授業内容説明、諸注意、その他 1)健康と健康増進の概念～ 5)介護予防について		
	2	第2章 運動生理学	1)運動の発現～ 7)運動の持続と呼吸循環系		
	3	第2章 運動生理学	8)呼吸循環系の機能の指標と調節機構～ 15)体力に及ぼす先天的要因(遺伝)と後天的要因(運動実践の効果)		
	4	第3章 機能解剖とバイオメカニクス	1)骨格筋系の機能解剖学～ 4)水中運動と陸上運動の比較		
	5	第4章 栄養摂取と運動	1)健康と栄養～ 8)生活習慣と栄養・食生活		
	6	第5章 運動指導の心理学的基礎	1)運動実践に関わる社会・心理・環境的要因～ 6)個別指導における動機づけとカウンセリング		
	7	第6章 体力測定と評価	1)体力とは～ 7)体力測定結果の分析・評価・活用法		
	8	第7章 健康づくりと運動プログラム	1)健康づくりのための運動・トレーニング原理・原則～ 6)レジスタンス運動		
	9	第8章 健康づくり運動の実際	A)健康運動実践指導者とは～ B)ウォーキングとジョギング		
	10	第8章 健康づくり運動の実際	C)エアロビックダンス～ E)レジスタンス運動(1)(2)		
	11	第9章 運動傷害と予防・救急処置	1)運動前の内科的メディカルチェックについて～ 7)テーピングの技術		
	12	総復習①	1章～3章の復習・補足		
	13	総復習②	4～7章の復習・補足		
	14	総復習③	8～9章の復習¥捕捉		

	15	定期試験対策・まとめ	定期試験範囲の復習
--	----	------------	-----------

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	イベント企画・運営実習Ⅱ〔SB2〕		担当教員	田中 いぶき	
対象年次・学期			必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数	30 回	時間数 60 時間
授業目的					
到達目標					
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	評価内容				
	評価内容				
	評価割合				
	評価割合				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		

授業科目	イベント企画・運営実習Ⅱ〔SB2〕	担当 教員 実務 経験		
対象年次・学期		担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	スポーツプログラマー対策 〔トレ 3・健康 2〕		担当教員	小笠原 鷹介	
対象年次・学期	3 年／2 年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
					30 時間
授業目的	スポーツプログラマー検定の合格及び資格取得に向けて論理的に理解する。				
到達目標	スポーツプログラマー検定の合格及び資格取得に向けて、得点平均 8 割台を目標とする。				
テキスト・参考図書等	スポーツプログラマー専門科目テキスト 必要に応じて、資料を配布				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	小テスト 50% その他 50% (受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 20%)		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	0			
	その他	50			
履修上の留意事項	教本、資料を参考に論理的に授業を進め、模擬試験で理解度を確認する。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	運動と健康	運動と健康		
	2	運動と健康	スポーツプログラマーの役割		
	3	フィットネス・エクササイズ の理論と実際	フィットネス・トレーニング		
	4	フィットネス・エクササイズ の理論と実際	マシーントレーニング		
	5	フィットネス・エクササイズ の理論と実際	ヘルス・エクササイズ		
	6	フィットネス・エクササイズ と健康管理	フィットネス・エクササイズと体調		
	7	フィットネス・エクササイズ と健康管理	ウォーミングアップとクーリングダウン		
	8	体力測定と評価	体力測定の方法、測定結果の処理、体力評価とスポーツプログラム		
	9	フィットネスプログラムの 実際	フィットネスプログラムの基本的 方法		
	10	フィットネスプログラムの 実際	子ども・中年のフィットネス プログラム		
	11	フィットネスプログラムの 実際	高齢者・女性・障害者の フィットネスプログラム		
	12	スポーツ相談の 実際	スポーツ相談の意義、 スポーツ相談の実際		
	13	確認テスト①	過去問題①、解答、説明		
	14	確認テスト②	過去問題②、解答、説明		
	15	確認テスト③	過去問題③、解答、説明		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	健康プログラムⅠ〔健康2〕		担当教員	小笠原 鷹介	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	0回	時間数
30時間					
授業目的	専門知識を学び、実践者に対し適切なプログラムや指導を行うにあたり、様々な側面に配慮できるようになる。				
到達目標	スポーツプログラマーとしての資質向上を目指し、現場指導において実践者に満足していただけるプログラムを提供できるようになる。				
テキスト・参考図書等	スポーツプログラマー専門科目テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	授業内での小テストやレポート、その他出席状況や授業態度等を総合的に評価する。		
	レポート	30			
	小テスト	30			
	提出物	20			
	その他	20			
履修上の留意事項	講義形式、視聴覚機器の活用、そして資料を中心に授業を進めていきます。基礎知識＋応用（現場経験）＝専門（プロ）となります。人に何かを伝える、上達させる、改善することを授業を通じて、順応できることを目指しましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業内容、成績評価基準、諸注意等の説明		
	2	Ⅰ運動と健康	運動と健康		
	3	Ⅰ運動と健康	スポーツプログラマーの役割		
	4	Ⅱフィットネス・エクササイズの理論と実際	フィットネストレーニング①		
	5	Ⅱフィットネス・エクササイズの理論と実際	フィットネストレーニング② 着地衝撃とその緩和法		
	6	Ⅱフィットネス・エクササイズの理論と実際	フィットネストレーニング③ 投動作と打動作の共通点、運動と流体力		
	7	Ⅱフィットネス・エクササイズの理論と実際	マシーントレーニング		
	8	Ⅱフィットネス・エクササイズの理論と実際	ヘルス・エクササイズ		
	9	Ⅲフィットネス・エクササイズと健康管理	フィットネス・エクササイズと体調① 1) 体調チェックの意義と方法		
	10	Ⅲフィットネス・エクササイズと健康管理	フィットネス・エクササイズと体調② 2) スポーツと疲労回復(栄養と休養)		
	11	Ⅲフィットネス・エクササイズと健康管理	ウォーミングアップとクーリングダウン①		
	12	Ⅲフィットネス・エクササイズと健康管理	ウォーミングアップとクーリングダウン②		
	13	運動生理学	運動と血液・体液 成長期における体力・基本的動作のスキル発達		
	14	運動生理学 まとめ①	成人以降の加齢に伴う体力・運動能力の低下 体力に及ぼす先天的・後天的効果 学習内容の復習		

	15	まとめ②	学習内容の復習
--	----	------	---------

授業科目	健康プログラムⅠ〔健康2〕	担当教員 実務経験	小笠原鷹介 有：■ 無：□	
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員		
授業形態		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	インターンシップⅡ 〔SB2〕		担当教員	小笠原 鷹介	
対象年次・学期			必修・選択区分	2年／必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的					
到達目標					
テキスト・参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0			
	レポート	80			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	0			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	事前学習①			
	2	事前学習②			
	3	事前学習③			
	4	事前学習④			
	5	事前学習⑤			
	6	事前学習⑥			
	7	企業実習			
	8	企業実習			
	9	企業実習			
	10	企業実習			
	11	企業実習			
	12	企業実習			
	13	企業実習			
	14	企業実習			
	15	企業実習			

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	二年次研究課題Ⅲ〔健康2〕		担当教員	教員 未登録	
対象年次・学期		必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数	0 回	時間数	60 時間
授業目的					
到達目標					
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	評価内容				
	評価内容				
	評価割合				
	評価割合				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	ボランティア活動Ⅱ〔共通2〕		担当教員	今北 雄太		
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態			授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	ボランティア活動を通じて、直接的に実践力を身につける。					
到達目標	ボランティア活動先における実務遂行を通じてボランティア精神や各種能力・技術力の向上を図る。					
テキスト・参考図書等						
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	ボランティア活動先の担当者に、実務遂行状況について、相対的な判断にて評価してもらう。(ボランティア活動先の担当者とは当該クラス担任間において情報交換し評価する場合もある。) 「ボランティア活動報告書」の提出をもって、活動状況を把握する。			
	レポート	0				
	小テスト	0				
	提出物	0				
	その他	100				
履修上の留意事項	学外での活動であり、ボランティア活動先において学習するため、各自の目標設定やスケジュール管理が大変重要となります。活動期間が有意義なものとなるように、コミュニケーションをしっかりと取りながら、目標達成を目指してください。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	2	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	3	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	4	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	5	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	6	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	7	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	8	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	9	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	10	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	11	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	12	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	13	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	14	ボランティア活動先に	ボランティア活動内容について、実務を通じて学			

		おける実務遂行	習する
	15	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	カレッジイベントⅡ〔健康2〕		担当教員	喜多 奎介	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	イベントを楽しく成功させる為の方法をディスカッションを通じ企画する事を目的とする。				
到達目標	誰もが楽しめるイベントを目指す。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料を配布。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート 20% 提出物 20% その他 60%（受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 30%）		
	レポート	20			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	60			
履修上の留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。、人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	カレッジイベント内容①	イベントの内容説明		
	2	役割分担	執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定		
	3	リハーサル	各種目のルール、及び実践確認		
	4	イベント実施	スポーツ大会		
	5	振り返り	レポート作成、提出		
	6	カレッジイベント内容②	イベントの内容説明		
	7	役割分担	執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定		
	8	リハーサル	各種目のルール、及び実践確認		
	9	イベント実施	スポーツフェスティバル		
	10	振り返り	レポート作成、提出		
	11	カレッジイベント内容③	イベントの内容説明		
	12	役割分担	執行部、委員、イベント参加者、展示担当者の決定		
	13	リハーサル	執行部、委員、イベント参加者、展示担当者 当日準備		
	14	イベント実施	学園祭		
15	振り返り	レポート作成、提出			

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	スポーツトレンドリサーチⅡ〔SB2〕		担当教員	中根 望	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
					30時間
授業目的	トレンドリサーチⅠで学んだ視線を基礎に、「北海道×トレンド」を軸にして実践的なトレンドリサーチを実行していくフェーズに入っていく。				
到達目標	独自の発見をしながら、テーマに対して多角的な深い分析を完成させる。個人ワークをベースに自信を持って発表できる内容で最終着地をすること。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて配布				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	パワーポイントなどの成果物の提出物や、所見を含めて評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	30			
	その他	70			
履修上の留意事項	発表資料の途中提出、最終発表資料提出など期限内の提出が原則となります。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、共通インプット	第1テーマについての共有、基礎知識、フレームワークを実施し、土台作り		
	2	オリエンテーション、共通インプット	第1テーマについての共有、基礎知識、フレームワークを実施し、土台作り		
	3	個別リサーチ	切り口の決定、深掘り		
	4	個別リサーチ	切り口の決定、深掘り		
	5	中間発表、ブラッシュアップ	中間発表、意見交換		
	6	ブラッシュアップ	情報の精査、資料の修正、情報の追加		
	7	発表・反省	第1案について発表、反省		
	8	オリエンテーション、共通インプット	第1テーマについての共有、基礎知識、フレームワークを実施し、土台作り		
	9	オリエンテーション、共通インプット	第1テーマについての共有、基礎知識、フレームワークを実施し、土台作り		
	10	個別リサーチ	切り口の決定、深掘り		
	11	個別リサーチ	切り口の決定、深掘り		
	12	中間発表、ブラッシュアップ	中間発表、意見交換		
	13	ブラッシュアップ	情報の精査、資料の修正、情報の追加		
	14	発表・反省	第1案について発表、反省		
15	1年間のまとめ	個人の振り返り			

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	二年次研究課題Ⅰ〔健康2〕		担当教員	教員 未登録	
対象年次・学期		必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数	0 回	時間数	60 時間
授業目的					
到達目標					
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	評価内容				
	評価内容				
	評価割合				
	評価割合				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	ジュニアスポーツ指導の基礎〔健康 2〕		担当教員	今北 雄太	
対象年次・学期	2 年・前期		必修・選択区分	選択(PH)／必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	子どもスポーツの指導者としての基礎を学びます。各年齢で行うべき運動とは何か？子どものやる気を引き出し、運動能力を高めるコミュニケーション方法や指導方法を学びます。ジュニアスポーツ指導員の合格を目指します。				
到達目標	今日の子どもの現状、発育発達期の身体的・心理的特徴を理解し説明する事が出来る。				
テキスト・参考図書等	公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	小テストの結果および提出物の内容、その他（受講姿勢、受講態度等）を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	20			
	その他	30			
履修上の留意事項	教本やワークブックを中心に授業展開します。小テストを行います。ノートを使いますので用意してください。ジュニアスポーツ指導員資格の出題範囲にもなっています。毎時間きっちり楽しみながら勉強しましょう！！				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	第 1 章 概論	子どもにおける運動、スポーツの意義・価値 / 環境、体力の現状と課題 ACP / ジュニアスポーツ指導員の役割		
	2	第 2 章 コーチング	良い指導者としての観点 / ジュニア期のコーチングの目指すもの / プログラム作成時のポイント / ケーススタディ		
	3	第 3 章 体力 第 4 章 動きの発達	発育期の体格と体力 / 発育・発達 / 体力の測定と評価 動きの発達・獲得 / 動きの質的評価 / 評価から指導へ		
	4	第 5 章 心理 第 6 章 栄養	こころの発達 / 子どもの心理的特徴 / ジュニアにおける食事の意義 / 栄養摂取の過不足で起こる問題とその予防		
	5	第 7 章 スポーツ医学 第 8 章 女性とスポーツ	からだの構造と成長発達 / スポーツ外傷・障害予防への取り組み 女性の身体的・体力的特徴 / 女性において起こりやすい諸問題		
	6	実技編 運動遊び・スポーツ①	発達段階に応じた運動遊び・スポーツの選択		
	7	実技編 運動遊び・スポーツ②	スポーツ指導における運動遊びの活用		
	8	実技編 運動遊び・スポーツ③	アイスブレイクの必要性		
	9	実技編 運動遊び・スポーツ④	運動遊びをアレンジする必要性		
	10	指導プログラムの作成	プログラムを作成しシミュレーション		

	11	指導プログラムの実践 と評価・レベルアップ	実践・評価・改善
	12	指導プログラムの実践	実践・振り返り
	13	指導プログラムの作成	プログラムを作成しシミュレーション
	14	指導プログラムの実践 と評価・修正	実践・評価・改善
	15	指導プログラムの実践	実践・まとめ

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	検定対策Ⅲ〔MT2・IN2・CO2・SB2〕		担当教員	田中 いぶき	
対象年次・学期			必修・選択区分		
授業形態			授業回数	30 回	時間数 60 時間
授業目的	健康運動実践指導者試験合格に向けて、実技・理論試験対策を行い、指導者としてのスキルを身に付ける。				
到達目標	健康運動実践指導者試験合格と共に、健康運動実践指導者に求められる知識を習得する。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0			
	レポート	0			
	小テスト	40			
	提出物	40			
	その他	20			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、演習問題	授業概要説明 復習演習		
	2	第1章 健康づくり施策概論	問題演習、作問		
	3	第2章 運動生理学	小テスト、問題演習、作問		
	4	第3章 機能解剖とバイオメカニクス	小テスト、問題演習、作問		
	5	第4章 栄養摂取と運動	小テスト、問題演習、作問		
	6	第5章 運動指導の心理学的基礎	小テスト、問題演習、作問		
	7	第6章 体力測定と評価	小テスト、問題演習、作問		
	8	第7章 健康づくりと運動プログラム	小テスト、問題演習、作問		
	9	第8章 健康づくり運動の実際	小テスト、問題演習、作問		
	10	第8章 健康づくり運動の実際	小テスト、問題演習、作問		
	11	第9章 運動障害と予防・救急処置	小テスト、問題演習、作問		
	12	健康運動実践指導者理論対策	小テスト、問題演習		
	13	健康運動実践指導者理論対策	小テスト、問題演習		
	14	健康運動実践指導者理論対策	小テスト、問題演習		

	15	前期まとめ小テスト	前期まとめテスト
	16	健康運動実践指導者理論対策・実技対策	演習問題、実技対策
	17	健康運動実践指導者理論対策・実技対策	演習問題、実技対策
	18	健康運動実践指導者理論対策・実技対策	演習問題、実技対策
	19	健康運動実践指導者理論対策・実技対策	演習問題、実技対策
	20	健康運動実践指導者理論対策・実技対策	演習問題、実技対策
	21	健康運動実践指導者理論対策	演習問題
	22	健康運動実践指導者理論対策	演習問題
	23	健康運動実践指導者理論対策	演習問題
	24	健康運動実践指導者理論対策	演習問題
	25	健康運動実践指導者理論対策	演習問題
	26	健康運動実践指導者理論対策	問題演習
	27	健康運動実践指導者理論対策	問題演習
	28	健康運動実践指導者理論対策	問題演習
	29	健康運動実践指導者理論対策	問題演習
	30	健康運動実践指導者理論試験 作問	出題問題に沿った作問

授業科目	検定対策Ⅲ〔MT2・IN2・CO2・SB2〕	担当 教員 実務 経験	田中 いぶき 有：□ 無： ■	
対象年次・学期		担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	健康運動実践指導者対策実技〔MT2・PH2・SB2〕		担当教員	田中 いぶき	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	健康運動実践指導者検定合格に向けて、レジスタンス運動・有酸素運動の指導実践ができるようになる。				
到達目標	健康運動実践指導者実技試験を合格するレベルで指導できる。				
テキスト・参考図書等	プリント、DVD				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	小テストでは模擬試験での評価とする その他は積極的な受講姿勢等で評価する		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	10			
	その他	40			
履修上の留意事項	スタジオ・プールでの指導実践が中心となる。健康運動実践指導者に必要な指導能力を理解し、指導者としての資質向上を目指し取り組んでいきましょう。皆さん自身の指導実演能力が問われる資格です。この授業で100%合格できる自信をつけられるよう学んでください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	(共通)ガイダンス	(共通)授業の進め方について説明・検定内容の説明、ステップの確認、W-up・C-down		
	2	有酸素運動・レジスタンス運動の基礎学習	DVD視聴および内容の把握・暗記、実演、W-up・C-down		
	3	指導練習①	レジスタンス運動の指導方法		
	4	指導練習②	レジスタンス運動の指導方法		
	5	指導練習③	レジスタンス運動の指導方法		
	6	指導練習④	レジスタンス運動の指導方法		
	7	指導練習⑤	有酸素運動の指導方法		
	8	指導練習⑥	有酸素運動の指導方法		
	9	指導練習⑦	有酸素運動の指導方法		
	10	指導練習⑧	有酸素運動の指導方法		
	11	指導練習⑨	5分間の実践指導練習		
	12	指導練習⑩	5分間の実践指導練習		
	13	指導練習⑪	検定試験と同様の形で実技試験の実施		
	14	模擬試験	検定試験と同様の形で実技試験の実施		
	15	模擬試験	検定合格基準に満たない学生対象の再試験実施		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	スポーツと社会〔健康 2〕		担当教員	小笠原 鷹介	
対象年次・学期	2 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
授業目的	スポーツの概念及び文化としてのスポーツについて理解を深める。社会のなかでスポーツ活動がどのような意味を持ち、歴史的にいかに発展してきたかを理解する。さらに、わが国のスポーツ振興政策を理解し、地域スポーツクラブ・広域スポーツセンターの機能と役割を学ぶ。				
到達目標	わが国のスポーツが社会の中にどのように構築されているか、スポーツ組織の運営と事業展開について学び、多種多様なニーズを持つ人々に対応するために必要な実践的な考え方を身につけることを目標とする。				
テキスト・参考図書等	Reference Book(公益財団法人日本スポーツ協会)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	出席や、毎時間のレポートを提出すること。そのレポート内容と最終確認テストを実施し、総合的に評価する。		
	レポート	60			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	10			
履修上の留意事項	提出物・出席数・テスト等、毎回の授業が評価になっていることを理解しながら授業に取り組んでください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	スポーツの意義と価値	<ガイダンス> なぜ、コーチは「スポーツの意義と価値」を考えなければならないのか／ 社会の中におけるスポーツの価値		
	2	スポーツの意義と価値	文化としてのスポーツ／スポーツの文化的特性		
	3	スポーツの意義と価値	「スポーツ宣言日本」におけるスポーツの意義と価値／ オリンピズムにおけるスポーツの意義と価値の捉え方		
	4	スポーツの価値を守る スポーツ権	スポーツの定義／基本的人権としてのスポーツ／ スポーツの価値／ スポーツ権の内容		
	5	スポーツの自治～ガバナンスとコンプライアンス～	スポーツの自治／グッド・ガバナンスの確立／コンプライアンスとは		
	6	暴力・ハラスメントの根絶	暴力／ハラスメント		
	7	暴力・ハラスメントの根絶	暴力・ハラスメントの根絶のために		
	8	スポーツのインテグリティ	スポーツにおけるインテグリティの確保／アンチ・ドーピング活動／アンチ・ドーピングのルール／ドーピング防止活動推進法／ドーピング違反事例		
	9	アンチ・ドーピング	アンチ・ドーピングとは／アンチ・ドーピングの歴史／ 世界アンチ・ドーピング機構および日本アンチ・ドーピング機構について等		

			レポート課題①
	10	アンチ・ドーピング	ドーピングコントロールの全体像とドーピング検査／結果管理／制裁、上訴／禁止薬物と治療使用特例（TUE）／スポーツ指導者の役割
	11	スポーツ組織のマネジメント	スポーツ組織の持続可能性／「目的」のマネジメント／「補完」のマネジメント
	12	スポーツ組織のマネジメント	地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」／ スポーツ少年団の活動分野と内容／日本スポーツ少年団と総合型クラブとの連携・協働
	13	スポーツ組織のマネジメント	スポーツ指導者に求められるマネジメント／スポーツ組織の特性
	14	障がい者とスポーツ	障がい者・障がいの理解／障がい者のスポーツの現状と課題
	15	障がい者とスポーツ	障がい者のスポーツ指導者の育成／ （公財）日本障がい者スポーツ協会のビジョン レポート課題②

授業科目	スポーツと社会〔健康 2〕	担当 教員 実務 経験	小笠原鷹介 有：■ 無： □	中・高保健体育教諭
対象年次・学期	2 年・前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	制作と販売〔SB2〕	担当教員	今北 雄太		
対象年次・学期		必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数	0 回	時間数	60 時間
授業目的	本授業では、地域企業やスポーツチーム等のブランド資産を掛け合わせ、新たな価値を創造するプロセスを実践的に学習する。単なる物品販売に留まらず、地域の課題解決やファンのエンゲージメント向上を目的とした「商品・サービス」の企画から販売までを網羅し、スポーツを基軸とした地域経済の活性化手法を体得することを目的とする。				
到達目標	①分析力： ターゲット層を明確にし、ニーズを数値と背景から説明できる。 ②企画力： 予算、納期、販売目標を含めた現実的な事業計画書を作成できる。 ③実行力： SNS や実店舗での販売戦略を立案し、実際の販促アクションにつなげられる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験		企画提案書（提出物）： 論理的整合性と、地域・チームへの貢献性 プレゼンテーション（小テスト）： 説得力、および質疑に対する誠実な回答 プロジェクト貢献度（その他）： 出席、実務工程（制作・販売）における主体性と協調性(受講姿勢) 上記を総合的に判断して評価する		
	レポート				
	小テスト	30			
	提出物	30			
	その他	40			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	スポーツビジネスにおける「制作と販売」の意義。		
	2	事例研究①	成功・失敗事例の調査、研究。		
	3	事例研究②	成功・失敗事例の調査、研究。		
	4	商品企画ワーク①	アイデア発想とペルソナ設定。「誰に、何を、なぜ」届けるのか。		
	5	商品企画ワーク②	アイデア発想とペルソナ設定。「誰に、何を、なぜ」届けるのか。		
	6	商品企画ワーク③	実現可能性（フィジビリティ）の検討。		
	7	商品企画ワーク④	実現可能性（フィジビリティ）の検討。連携先への提案準備。		
	8	商品企画ワーク⑤	連携先への提案準備。		
	9	中間プレゼンテーション	チーム・企業担当者への企画提案。		
	10	中間プレゼンテーションの振り返り	フィードバックを通じたブラッシュアップ。		
	11	収益構造の設計①	製造原価、ライセンス料、販管費の算出。損益分岐点の理解。		
	12	収益構造の設計②	製造原価、ライセンス料、販管費の算出。損益分岐点の理解。		
	13	制作実務と品質管理①	サンプル検品、修正指示、リードタイム（納期）管理。		
	14	制作実務と品質管理②	サンプル検品、修正指示、リードタイム（納期）		

			管理。
	15	ブランディングと知財①	ロゴ使用規定（レギュレーション）、商標権、景品表示法の基礎。
	16	ブランディングと知財②	ロゴ使用規定（レギュレーション）、商標権、景品表示法の基礎。
	17	チャンネル・ロジスティクス①	EC、スタジアム、地域店舗。在庫管理と配送フローの構築。
	18	チャンネル・ロジスティクス②	EC、スタジアム、地域店舗。在庫管理と配送フローの構築。
	19	プロモーション戦略①	ストーリーテリングを用いた広報。SNSでの「バズ」と「信頼」の設計。
	20	プロモーション戦略②	ストーリーテリングを用いた広報。SNSでの「バズ」と「信頼」の設計。
	21	プロモーション戦略③	プレスリリース作成演習。メディアやインフルエンサーへのアプローチ。
	22	プロモーション戦略④	プレスリリース作成演習。メディアやインフルエンサーへのアプローチ。
	23	販売シミュレーション①	VMD（陳列）デザイン、接客ロールプレイング、実務確認。
	24	販売シミュレーション②	VMD（陳列）デザイン、接客ロールプレイング、実務確認。
	25	販売実習（現場実践）①	実際の試合会場や店舗での販売実施、顧客データの収集。
	26	販売実習（現場実践）②	実際の試合会場や店舗での販売実施、顧客データの収集。
	27	実績分析とレビュー①	売上・客単価・購買層の分析。KPIに対する達成度の検証。
	28	実績分析とレビュー②	売上・客単価・購買層の分析。KPIに対する達成度の検証。
	29	最終成果報告会①	連携先への結果報告。
	30	まとめ	プロジェクトの総括と今後の改善提案。

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	JATI トレーニング指導者 対策〔AT3・MT3・AT2・ MT2・IN2・CO2・SB2〕		担当教員	菊地 健太	
対象年次・学 期	3 年／2 年・集中		必修・選択区 分	必修 (PHⅢ・ TRⅡ)・選択	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	スポーツ選手や一般人を対象としたトレーニング指導の専門家として活動する為の知識を学ぶ。				
到達目標	対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要とされる知識を習得し、JATI トレーニング指導者の資格試験に合格する。				
テキスト・ 参考図書等	トレーニング指導者テキスト理論編／トレーニング指導者テキスト実践編／その他配布プリント等				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	その他(受講姿勢等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	100			
履修上の 留意事項	各章に対しての出題				
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 1	トレーニング指導者論／各種トレーニング法の理論 とプログラム（筋力・パワー持久力）		
	2	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 2	各種トレーニング法の理論とプログラム（スピー ド・柔軟性・特別な対象）		
	3	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 3	各種トレーニング法の実際（筋力トレーニングの実 際）		
	4	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 4	各種トレーニング法の実際（パワー・持久力・スピー ド・柔軟性向上）		
	5	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 5	トレーニングの効果の測定と評価（測定データの活 用）		
	6	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 6	体力総論／機能解剖／バイオメカニクス／運動生理 学／栄養		
	7	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 7	運動と栄養／運動と心理／運動と医学／運度指導の 科学		
	8	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 1	一般科目 1		
	9	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 1	専門科目 1		
	10	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 2	一般科目 2		
	11	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 2	専門科目 2		
	12	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 3	一般科目 3		
	13	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 3	専門科目 3		

	14	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 4	一般科目 4
	15	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 4	専門科目 4

授業科目	JATI トレーニング指導者 対策〔AT3・MT3・AT2・ MT2・IN2・CO2・SB2〕	担当 教員 実務 経験		
対象年次・学 期	3 年／2 年・集中	担当 教員	大菅貴広	トレーニング指導者
授業形態		実務 経験	有：■ 無： □	
		担当 教員	菊地健太	トレーニング指導者
		実務 経験	有：■ 無： □	
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
実務 経験				

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	JATI 理論対策〔健康 2〕		担当教員	菊地 健太	
対象年次・学期	AT・MT・PHⅡ、TR・IN・COⅡ+SBⅡ/前期		必修・選択区分	AT・MT・PHⅡ必修、TR・IN・COⅡ必修+SBⅡ選択者/	単位数
授業形態			授業回数	0 回	時間数 30 時間
授業目的	JATI トレーニング指導者資格試験に必要なとなるトレーニング科学、運動生理学、解剖学、栄養学、コンディショニングなどの基礎理論を体系的に学習する。 また、資格試験の出題傾向を踏まえた問題演習を行い、トレーニング指導者として必要な知識を理解するとともに、資格試験合格に必要な知識の定着を図る。				
到達目標	JATI 資格試験の基礎理論を理解できる トレーニングに関わる身体の構造・機能を説明できる 各種トレーニング理論の基本を理解できる 栄養やコンディショニングの基本的な考え方を説明できる JATI 試験レベルの問題を解答できる				
テキスト・参考図書等	トレーニング指導者テキスト〔理論編〕 3 訂版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験				
	レポート				
	小テスト	50			
	提出物				
	その他	50			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス・JATI 資格制度	授業の目的、評価方法の説明 JATI トレーニング指導者資格の概要 資格取得の流れ		
	2	体力トレーニング論	体力の概念 防衛体力・行動体力		
	3	運動と栄養	運動と栄養の基礎理論		
	4	運動と栄養	対象と目的に応じた栄養摂取		
	5	運動と医学	生活習慣病		
	6	運動と医学	生活習慣病復習		
	7	小テスト			
	8	運動と医学	スポーツ外傷		
	9	運動と医学	救命救急法		
	10	運動と心理	運動と心理の基礎理論		
	11	運動と心理	運動学習と指導法		
	12	運動生理学	呼吸循環系・エネルギー代謝と運動		
	13	運動生理学	骨格筋系、神経系、内分泌系と運動		

	14	総復習	
	15	小テスト	

授業科目	JATI 理論対策〔健康 2〕	担当 教員 実務 経験	菊地健太 有：■ 無： □	JATI トレーニング指導者
対象年次・学期	AT・MT・PHⅡ、TR・IN・COⅡ+SBⅡ/前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	ジュニアスポーツ指導実習〔PH3・IN2・CO2・SB2〕		担当教員	小笠原 鷹介		
対象年次・学期	2年・3年前期		必修・選択区分	選択（TR・SBⅡ・PHⅢ）／必修（IN・COⅡ）	単位数	
授業形態			授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	子どもへの体育指導、運動遊びを計画→実施→反省を行うことで、指導技術を習得する。また、実際に子どもと関わることで、実践的な子どもへのスポーツ指導法を学ぶ。 夏にイベントとして運動教室を開催し、その幼児・児童・生徒募集等の広報活動も含めて学ぶ。					
到達目標	グループワークを通して、インストラクター・コーチングの役割への理解。実習を通して、レッスンの計画方法の立案、子ども達への対応ができる。					
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準			
	試験	0	当日の運営・事前準備等総合的にみて判断する。 その他は指導案作成中や指導中の姿勢で評価する。			
	レポート	20				
	小テスト	0				
	提出物	20				
	その他	60				
履修上の留意事項	体育教室に向けて準備し、子どもたちにケガがないよう留意する。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション／指導計画の作成	オリエンテーション／指導計画・指導案作成			
	2	指導計画の作成	指導実習計画・指導案作成			
	3	指導計画案の作成	指導実習計画・指導案見直し			
	4	指導計画案の作成	指導実習計画・指導案見直し			
	5	指導計画案の予行演習	指導技術（補助・道具の利用方法）の練習			
	6	指導計画案の予行演習	指導技術（補助・道具の利用方法）の練習			
	7	指導計画案の予行演習	指導実習の練習・指導案見直し			
	8	指導計画案の予行演習	指導実習の練習・指導案見直し			
	9	指導実習	幼児 A①－1			
	10	指導実習	保育園、スクール指導実習予定			
	11	指導実習	幼児 A①－2			
	12	指導実習	保育園、スクール指導実習予定			
	13	指導実習	幼児 A①－3			
	14	指導実習	保育園、スクール指導実習予定			
	15	指導実習	幼児 A②－1			

	16	指導実習	保育園、スクール指導実習予定
	17	指導実習	幼児 A②－2
	18	指導実習	保育園、スクール指導実習予定
	19	指導実習	幼児 A②－3
	20	指導実習	保育園、スクール指導実習予定
	21	指導実習	幼児 A③－1
	22	指導実習	幼児 B①
	23	指導実習	幼児 A③－2
	24	指導実習	幼児 B②
	25	指導実習	幼児 A③－3
	26	指導実習	幼児 B③
	27	指導実習振り返り	幼児 AB 実習反省まとめ各班資料作成
	28	指導実習振り返り	幼児 AB 実習反省まとめ各班資料作成
	29	指導実習振り返り	幼児 AB 実習反省まとめ各班資料作成
	30	指導実習振り返り	全体発表

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	JATI 実践対策〔健康 2〕	担当教員	見田 昌司		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修/選択	単位数	
授業形態	座学	授業回数	0 回	時間数	30 時間
授業目的	トレーニング指導者になる上で必要になってくる知識・技術を習得し、対象者に適切なトレーニングを実施できるようにする。				
到達目標	対象者のニーズを聴取、分析して適切な運動メニューを考案できるようにする。また手本となるトレーニングを見せられるように正確な動作の習得を目指す。				
テキスト・参考図書等	トレーニング指導者テキスト〔実践編〕 3 改訂				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	第 8 回、第 15 回時に小テストを実施して採点、評価。また出席、授業態度も踏まえて総合的に評価していく。		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	0			
	その他	50			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション 1 章 トレーニング指導者論 1 節 トレーニング指導者の役割 2 節 トレーニング指導者の実務	トレーニング指導者として身につけるべき資質や考え方、知識についてを大きな枠組みで捉えられるようにする。		
	2	2 章 測定と評価 1 節 トレーニング効果の測定と評価	測定と評価の位置付け、測定の実際を学んでいく		
	3	2 章 測定と評価 2 節 測定データの分析とデータの活用方法	前回の授業で学習した内容をもとに、そのデータの活用の方法の仕方を学んでいく。		
	4	3 章 トレーニング理論とプログラム 1 節 長期的トレーニング計画 2 節 レジスタンストレーニング	長期のトレーニング計画を立てられるようにピリオダイゼーションを中心に学習していく。また対象に応じたトレーニング計画を立てる上で、必要になってくるトレーニングの種類を学んでいく。		
	5	3 章 トレーニング理論とプログラム 3 節 パワートレーニング 4 節 持久力向上トレーニング	対象に応じたトレーニング計画を立てる上で、必要になってくるトレーニングの種類を学んでいく。		
	6	3 章 トレーニング理論とプログラム	対象に応じたトレーニング計画を立てる上で、必要になってくるトレーニングの種類を学んでい		

		5 節 スピードトレーニング 6 節 柔軟性向上トレーニングおよびウォームアップ、クールダウン、リカバリー	く。
	7	3 章 トレーニング理論とプログラム 7 節 特別な対象のためのトレーニングプログラム 8 節 生活習慣病、傷害の受傷から復帰までのトレーニングプログラム	対象に応じたトレーニング計画を立てる上で、必要になってくるトレーニングの種類を学んでいく。
	8	小テスト 出題範囲 1 章から 3 章まで	小テスト 60 分 その後回答、解説
	9	4 章 レジスタンストレーニングの実技 1 節 レジスタンストレーニングの実技と指導法	実際に部位に応じたレジスタンストレーニング学んでいく。
	10	4 章 レジスタンストレーニングの実技 2 節 パワートレーニングの実技と指導法	パワートレーニング時の留意点と実際の動作について学習する。
	11	4 章 レジスタンストレーニングの実技 3 節 持久力向上トレーニングの実技と指導法	持久力向上トレーニング種類と実施時の留意点を学習していく
	12	4 章 レジスタンストレーニングの実技 4 節 スピードトレーニングの実技と指導法	スピードトレーニングの実施の留意点、アジリティの説明
	13	4 章 レジスタンストレーニングの実技 5 節 ウォームアップと柔軟性向上トレーニング、その他のトレーニングの実技と指導法	ウォーミングアップの実際とバランス、ファンクショナルトレーニングの実際について学習。
	14	教科書のまとめ	試験に出そうな問題の確認 小テストの勉強
	15	小テスト 出題範囲 4 章まで	小テスト 60 分 その後回答、解説

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	プレゼンテーション 〔SB2〕		担当教員	佐藤 あずさ	
対象年次・学期	2 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	0 回	時間数
授業目的	プレゼンテーションの基礎を学び、複数回の発表を通じて実践的なプレゼンテーションを学ぶ。また、プレゼンテーションに必要とされるスキルを習得していく。				
到達目標	プレゼンテーションの目的を理解し、プレゼンテーションに必要な技術を習得していく。習得した技術を発表に生かし、相互評価をすることによってスキルの向上を図り、効果的なプレゼンテーションができるようになる。				
テキスト・参考図書等	参考文献 渡辺克之『「伝わる資料」デザイン・テクニック』ソーテック社、2021 年。ほか				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	期末レポートや講義内で提示されるレポートや、発表内容や講義参加状況や態度によって評価する。 特に、レポートや講義内での発表内容に重きをおくため欠席がないように心がけましょう。		
	レポート	20			
	小テスト	30			
	提出物	30			
	その他	20			
履修上の留意事項	毎回 PC を使用するので持参すること。 プレゼンテーション作成の際には、Microsoft PowerPoint の使用を推奨する。 Google スライドや Keynote を使用しても構わないが、PowerPoint と異なる部分については可能な限り自力で解決するものとする。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	導入	・ 講義の流れ ・ プレゼンテーションとは ・ 自己紹介プレゼンの計画		
	2	自己紹介プレゼンテーション	自己紹介プレゼンを行う		
	3	スライド作成のポイント	スライド作成のポイント ・ 資料の基本や文字、効果 ・ 実際の企業で使用されている資料とは		
	4	伝わるプレゼン	プレゼンテーションで伝えるための要素とは		
	5	1 分間スピーチ	1 分間スピーチとは		
	6	1 分間スピーチ設計	発表に向けて 1 分間スピーチの設計		
	7	伝わる話し方 1 分間スピーチの練習	伝わる話し方を考える。 発表に向けた練習		
	8	発表：1 分間スピーチ	1 分間スピーチの発表		
	9	PowerPoint の使い方	PowerPoint の基礎的な使い方		
	10	プレゼンテーションの設計	設計の仕方と組み立て方		
	11	中間発表	・ 実際に自分で設計したプレゼンテーションを発表する ・ 相互評価を行う		
	12	プレゼンテーションの見直し	発表を通じて、見直しを行っていく。		
	13	まとめ・最終プレゼンに向けた準備	学修した内容を活かしたプレゼンテーションの準備を行う		

	14	最終発表・相互評価	最終発表と相互評価
	15	期末試験	期末試験

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	コミュニケーションⅡ 〔CO2・SB2〕		担当教員	中根 望		
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態			授業回数	0回	時間数	30時間
授業目的	1年次からの応用として、コミュニケーションを通じて、課題克服への積極的挑戦から自信に繋げる。					
到達目標	自主的に話題性をもって、人に関わり、立ち位置を確立できるようになる。					
テキスト・参考図書等	必要に応じて、資料を配布する。					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験	0	レポート 20% 提出物 20% その他 60%（受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 30%）			
	レポート	20				
	小テスト	0				
	提出物	20				
	その他	60				
履修上の留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	就職活動に向けて①	履歴書の記入方法			
	2	就職活動に向けて②	自己分析 自分の強み、弱さ、今後どのように成長していくか、どのような職業人でありたいか			
	3	就職活動に向けて③	業界研究 進みたい分野における調査			
	4	就職活動に向けて④	就職情報サイトの利用方法			
	5	面接試験に向けて①	心構え、様々な面接試験について			
	6	面接試験に向けて②	入退室、面接試験体験①			
	7	面接試験に向けて③	入退室、面接試験体験②			
	8	一般常識①	漢字（読み・書き）			
	9	一般常識②	丁寧語、敬語			
	10	一般常識③	挨拶、接遇			
	11	一般常識④	マナー、一般常識（応用）			
	12	一般常識⑤	ペア対話、グループ対話			
	13	まとめ①	確認テスト（読み・書き・丁寧語・敬語）			
	14	まとめ②	確認テスト（挨拶・接遇）			
	15	まとめ③	確認テスト（マナー・一般常識応用）			

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	ジュニアスポーツ指導員 対策〔健康 2〕		担当教員	今北 雄太	
対象年次・学 期	2 年・集中		必修・選択区 分	必修／選択 (TR II)	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	ジュニアスポーツ指導員と必要な知識（発育発達、体力、心理、栄養、医学、性差） を理解し、検定合格を目指す。				
到達目標	子どもの発育発達段階に沿った運動プログラムを作成し指導実践できる。				
テキスト・ 参考図書等	公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	70	模擬試験の他、提出物、受講姿勢等で総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	10			
	その他	20			
履修上の 留意事項	ジュニアスポーツ指導員は子ども達にとって憧れの存在です！運動技能はもちろん、 心の成長を目の当たりにすることが出来る素晴らしいさがあります。ジュニア スポーツ指導員合格を目指して頑張りましょう！！				
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ジュニアスポーツ指導 員 対策理論 1	第 1 章 概論 子どもの体力・運動能力の現状と課 題～ジュニアスポーツ指導員の 役割など		
	2	ジュニアスポーツ指導 員 対策理論 2	第 2 章 コーチング 発達に応じたコーチングとコ ーチングにおける留意点		
	3	ジュニアスポーツ指導 員 対策理論 3	第 3 章 体力 発育期発達期の体格、体力、体力テ スト		
	4	ジュニアスポーツ指導 員 対策理論 4	第 4 章 動きの発達 幼児期、児童期、思春期以降		
	5	ジュニアスポーツ指導 員 対策理論 5	第 5 章 心理 有能感の発達、運動遊びと認知的発 達		
	6	ジュニアスポーツ指導 員 対策理論 6	第 6 章 栄養 ジュニア期の栄養バランス		
	7	ジュニアスポーツ指導 員 対策理論 7	第 7 章 医学 小児の成長、安全で科学的な運動指 導		
	8	ジュニアスポーツ指導 員 対策理論 8	第 8 章 医学 ジュニア期のスポーツ外傷・障害の 実際		
	9	ジュニアスポーツ指導 員 対策理論 9	第 9 章 女性とスポーツ 女性において起こりやす い諸問題		
	10	ジュニアスポーツ指導 員 対策理論 10	第 10 章 運動遊び 遊び、アイスブレイクとレパ ートリーアレンジ		
	11	ジュニアスポーツ指導 員 模擬試験 1	第 1 章と 2 章		
	12	ジュニアスポーツ指導 員 模擬試験 2	第 3 章と 4 章		
	13	ジュニアスポーツ指導 員 模擬試験 3	第 5 章と 6 章		

	14	ジュニアスポーツ指導員 模擬試験 4	第 7 章と 8 章
	15	ジュニアスポーツ指導員 模擬試験 5	第 9 章と 10 章

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	地域コラボ実習〔SB2〕	担当教員	中根 望		
対象年次・学期		必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数	0 回	時間数	60 時間
授業目的	本授業の目的は、実戦型授業を通じて「0 から 1 を生み出す」次世代のスポーツビジネス人材を育成すること。新規コンテンツ(女子 3x3 バスケットボール新リーグ)の立ち上げに主体的に関わり、マニュアルのない課題に対して試行錯誤を繰り返すことで、将来どの環境でも活躍できる「真の即戦力」となることを目指す。				
到達目標	①主催者視点の獲得:イベントの裏側にある「ヒト・カネ・モノ」の動きを理解し、コスト意識とマネジメント能力を習得する。 ②企画立案能力:自らのアイデアを論理的な企画書に落とし込み、フィードバックを受けて改善するプロセスを習得する。 ③課題解決能力:正解のない課題に対し、自ら考え行動するスキル、主体性を身につける。 ④多職種連携の理解:トレーナーやダンス専攻など、多様な専門スキルを持つ他コースと連携し、相乗効果を生む手法を学ぶ。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験				
	レポート	30			
	小テスト				
	提出物	30			
	その他	40			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	プロジェクトの概要説明、0→1 ビジネスの重要性		
	2	アーバンスポーツ市場	3x3 の現状と普及活動の意義、地域スポーツの課題		
	3	ケーススタディ(1)	過去のイベント実績に基づいた開催プロセスの学習		
	4	ケーススタディ(2)	実際の運営ノウハウと「カネ・ヒト・モノ」の動き		
	5	リーグコンセプト設計	ターゲット設定と独自ルールの考案		
	6	グループワーク：企画立案	学生によるイベントアイデアの創出		
	7	企画書の作成(1)	論理的な構成と目的の明確化		
	8	企画書の作成(2)	収益化モデルと予算管理の検討		
	9	中間プレゼンテーション	企業視点からのフィードバックと修正		
	10	最終企画の決定	実行可能なプロジェクト計画の策定		
	11	運営組織の構築	役割分担とマニュアル作成（試行錯誤）		
	12	他コースとの連携(1)	ダンス専攻との演出プラン調整		
	13	他コースとの連携(2)	スポーツトレーナー学科とのサポート体制調整		

	14	集客・プロモーション	広報戦略の立案と実行
	15	第 1 回リーグ開催	実際のビジネス現場での運営参画
	16	振り返りと改善(PDCA)	現場での課題抽出と次回への反映
	17	第 2 回リーグ開催	月 1 回開催を通じた運営スキルの向上
	18	スポンサーシップ・収益化	実際の収益プロセスの分析
	19	第 3 回リーグ開催	運営の効率化とクオリティ向上
	20	危機管理・リスクマネジメント	現場でのトラブル対応事例の学習
	21	第 4 回リーグ開催	主体的な課題解決の徹底
	22	他イベントとの連動	地域イベント等との連携プロセス
	23	第 5 回リーグ開催	リーグ運営の完遂
	24	自主企画イベントの準備	学生たちが主体となる企画の実装
	25	自主企画の詳細設計	計画から実行までの全プロセスの管理
	26	学生主催イベント開催	プログラムの集大成としての実施
	27	プロジェクト報告書作成	数値と成果に基づく振り返り
	28	実績の言語化ワーク	就活で武器にするための差別化ポイント整理
	29	成果発表会	活動報告
	30	総括・今後の展望	「真の即戦力」としてのマインドセット

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	スポーツと指導者Ⅱ〔健康2〕		担当教員	今北 雄太	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	0回	時間数
授業目的	スポーツ指導を行う際に必要な事項について学習する。スポーツ現場において対象者のそれぞれの特性を把握し、それに基づいた指導やトレーニング方法、スポーツ栄養、医学的知識（けが、障害、疾病）など、幅広い知識の習得に努める。				
到達目標	指導する立場として、あらゆる対象者に、基本的な知識・技能をほかの分野と関係づけて説明できる。				
テキスト・参考図書等	Reference Book(公益財団法人日本スポーツ協会)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	授業内で行う小テスト及び課題等の提出物、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	60			
	提出物	10			
	その他	30			
履修上の留意事項	1. 講義形式により行う（パワーポイント、プリント、板書） 2. 随時課題や小テストにより理解を深める、あらゆる分野の指導者となる意識を高め、それに伴う確かな知識と技術を習得できるよう努める姿勢を保っていて下さい。知識の財産を蓄え、人間性を養って下さい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	<ガイダンス> スポーツトレーニングサイクル／スポーツパフォーマンス構造論／ トレーニング目標論		
	2	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	トレーニング手段・方法論／トレーニング計画論／ 試合行動論		
	3	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	トレーニングアセスメント／トレーニングと休養の バランス／ トレーニング環境の整備と効果的遂行の条件		
	4	体力のトレーニング	身体のしくみと動き		
	5	体力のトレーニング	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給		
	6	体力のトレーニング	体力を構成する要素の体系／体力トレーニングの 原理・原則／ トレーニングの種類		
	7	前半振り返り	前半振り返り/中間テスト		
	8	スキルトレーニング	スキルトレーニング		
	9	スポーツバイオメカニクス	運動する物体の性質、力学的エネルギー、力積等		
	10	スポーツバイオメカニクス	弾性エネルギー、摩擦力、流体力学等		
	11	スポーツに関する医学的知識	スポーツと健康／アスリートの健康管理／アスリートの 内科的障害と対策 女性アスリートの障害と対策／スポーツによる精		

			神障害と対策
	12	スポーツに関する医学的知識	外傷・障害の予防／コンディショニングの手法 救急処置（救急蘇生法）／救急処置（外科的応急処置）
	13	スポーツと栄養	5 大栄養素の役割と特徴／アスリートの栄養摂取の考え方／ サプリメント摂取の注意点
	14	スポーツと栄養	基本の食事／水分補給／栄養・食事計画の立案
	15	まとめ	授業内容の振り返り/まとめテスト

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	スポーツツーリズム研究〔SB2〕		担当教員	中根 望		
対象年次・学期	スポーツビジネスコース 2 年・前期		必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態			授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	スポーツツーリズムについて、その意義、現状、事例を学び、ツーリズムの重要なコンテンツとしてのスポーツの理解を深める。					
到達目標	スポーツツーリズムの現状について理解し、実施可能な試案を作成することができる。					
テキスト・参考図書等						
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験		レポートおよび提出物の内容、その他（受講姿勢、受講態度等）を総合的に評価する。			
	レポート	30				
	小テスト					
	提出物	40				
	その他	30				
履修上の留意事項	スポーツツーリズムの現場でご活躍されている講師の方々によるリアリティあふれる授業となります。北海道のスポーツツーリズムの現状をしっかりと把握できるよう、積極的な受講を期待します。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション	授業目的とアウトライン スポーツツーリズムの事例について調べる			
	2	日本・北海道観光政策（概論）	観光政策全般（観光は地域創生の起爆剤）			
	3	日本・北海道におけるスポーツツーリズムについて	スポーツツーリズムの歴史的背景と今後の展望			
	4	北海道のアウトドアガイドについて	北海道アウトドアガイド資格制度、アドベンチャートラベルガイド			
	5	アドベンチャートラベルについて	アドベンチャートラベル（全般）について			
	6	サイクルツーリズムについて	北海道におけるサイクルツーリズム			
	7	ゴルフツーリズムについて	北海道におけるゴルフツーリズム（インバウンド誘致）			
	8	アウトドア活動が盛んな町 南富良野町を研究	町民 2,400 名うち、40 名（10 社）がアウトドアガイド。その実態や活動内容について			
	9	ケア・ツーリズムについて（リハビリ、レスパイトツーリズム）	高齢化が進む中、病気が障がいのある方（家族含む）が旅行することで、活力や癒しとなる。（医師のサポートを受けながら、理学療法士が患者をサポート）			
	10	阿寒摩周国立公園トレイルネットワークについて	欧米豪旅行者が好む、ロングトレイル実現に至る経緯や今後の展望について			
	11	フィールドワーク	アドベンチャートラベル			

	12	試案の作成①	グループワークにて実現可能なスポーツツーリズム施策について検討
	13	試案の作成②	グループワークにて実現可能なスポーツツーリズム施策について検討
	14	試案の作成③	グループワークにて実現可能なスポーツツーリズム施策について検討
	15	試案の発表	各グループごとに考えた試案についてプレゼンテーション

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	スポーツ産業学〔SB2〕		担当教員	佐藤 あずさ	
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
					30時間
授業目的	スポーツ産業とは何かを理解し、身近にあるスポーツをスポーツ産業という目線から考える。				
到達目標	演習を通じて、身近なスポーツをスポーツ産業に落とし込み、多様な視点や思考をもつことを目標とする。				
テキスト・参考図書等	「スポーツ産業学入門」萩原淳平、日本スポーツ産業学会、2025年				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	普段の受講態度とディカッションの参加の様子、演習時の提出物、期末レポートなどで評価する。 受講者には、可能な限り休まずに授業に出席し、積極的な発言やディスカッションへの参加を求める。		
	レポート	25			
	小テスト	40			
	提出物	25			
	その他	10			
履修上の留意事項	演習では、自分で検索しながらレポートを作成していくので必要に応じてPCを持参したほうが良いかと思う。 第13回に設定している発表については、これまでの演習を通じた発表となる。その時は口頭やプレゼンテーションなど自分の希望するツールを用いて発表するため、用意しておくこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	導入・スポーツ産業を学ぶということ	イントロダクションと今後の流れ		
	2	スポーツ産業とは	そもそもスポーツ産業とは何か		
	3	スポーツという商品について考える	スポーツを通じて様々な商品に繋がっていることを理解する		
	4	演習1：スポーツ産業とスポーツという商品について	演習課題を提示し、演習レポートを作成する		
	5	スポーツ産業の歴史	スポーツ産業はどのようなあゆみを歩んできたか		
	6	スポーツ用具用品の概要	用具や用品からスポーツをみてる		
	7	演習2：歴史と用具用品からスポーツ産業について考える	演習課題を提示し、演習レポートを作成する		
	8	中間グループディスカッション・相互評価	今までの演習を通じて、学んだ考えをグループディスカッション内で発表する その後、相互評価を行う。		
	9	スポーツ産業施設の概要	スポーツ産業におけるスポーツ施設の役割と現在		
	10	スポーツ興行における権利ビジネス	スポーツ興行の考え方と現状		
	11	スポーツの価値を図る	スポーツの価値はどのように指標されるのか		
	12	演習3：スポーツ施設・工業・価値について	演習課題を提示し、演習レポート作成する		

		て考える	
	13	演習発表	3 回分の演習と中間グループディスカッション、相互評価で得た知見を発表する
	14	講義のまとめ	まとめ
	15	期末レポート	これまでの講義やレポートを通じて、期末レポートを作成し提出する

授業科目	スポーツ産業学〔SB2〕	担当 教員 実務 経験	佐藤 あずさ 有：■ 無： □	
対象年次・学期	2 年・後期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

